

「庁舎の在り方」 を考える

庁舎等の在り方検討市民委員会

第1回 会議報告



8月2日に市役所米原庁舎で、第1回「米原市庁舎等の在り方検討市民委員会」を開催しました。

今後、本格的に議論が進められていく庁舎や行政サービスの在り方について、その議論の様子を継続的に市民のみなさんにお伝えしていきます。

▼庁舎の在り方検討と 市民委員会の役割

市では旧4町の役場を活用し、本庁機能を分担する「分庁舎方式」を採用するとともに、各庁舎に市民自治センターを設置して窓口サービスを実施してきました。

そして、合併後約6年が経過し、分庁舎方式の検証や、各庁舎の老朽化や耐震など危機管理面を含めた検討が必要になっていきます。

このため、市では、庁舎についての現状の調査研究、市民目線による総合的な観点から今後の庁舎の在り方の検討を行う組織として、「米原市庁舎等の在り方検討市民委員会」を設置しました。

最終的には、市民委員会での意見をまとめ、市長に提言することになります。

▼第1回委員会の概要

委員長・副委員長の選出

市民委員会の構成メンバーは、次ページのとおりです。

委員長には岩崎恭典さん、副委員長には大橋松行さんに就任いただくことになりました。有識者として広い見地から、また、地域にとられない視点で、今後の委員会の議論を整理していただきます。

現状報告と今後の流れ

各庁舎と行政サービスセンターについて、耐震性能やバリアフリー化の状況、また、来庁舎の状況や取扱業務の内訳など、ハードとソフトの両面の視点で事務局が説明を行いました。

また、今年度は6回の会議を経たうえで、市長への意見提言を予定していますが、その間には市民1000人を対象とした意向調査などを実施して、市民のみなさんからも幅広く意見を求める予定であることの説明も行いました。

そのうえで、今回の委員会では、委員自身が市役所庁舎を利用して感じてきた意見等を出し合いました。

天野川 カムバック ビワサーモン!

「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」発足



写真提供 滋賀県水産課

みなさんは、ビワマスという魚をご存じですか。この魚は、琵琶湖の固有種で、鮭などと同じように、生まれた川に戻って産卵するという習性があります。

しかし、河川構造の問題などにより、現在ではビワマスが琵琶湖から川に戻れなくなってしまうのが実情です。

そこで、生物多様性の保全を進めるためのモデル事業として、天野川にビワマスが遡上できる環境をつくり、まちづくりや水産振興、環境学習などを進めることを目的に、「米原市天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」を設置しました。構成委員は、県や市のほか、滋賀県漁業

米原市庁舎等の在り方検討市民委員会 委員名簿

(敬称略)

氏名	選出団体等
岩崎 恭典	米原市行財政改革市民会議 (四日市大学総合政策学部) ◎委員長
大橋 松行	滋賀県立大学人間文化学部 ○副委員長
相宗 久夫	公募委員
竹内 健二	公募委員
大木 康司	山東地区区長会
吉川 正資	伊吹地区区長会
竹林 達夫	米原地区区長会
堀 正基	近江地区区長会
辻 智子	山東地域創造会議
鹿取 豊治	伊吹地域創造会議
角田 吾一	米原地域創造会議
小竹 一男	近江地域創造会議
岸場 啓	米原市行財政改革市民会議
中川庄太郎	米原市商工会
日向 寛	米原市民生委員児童委員協議会連合会
松本 顯穰	米原市老人クラブ連合会
川口 幸雄	米原市障害者福祉協会
橋本 啓子	米原市女性の会

▼委員からの意見(抜粋)

* 証明書の発行などは身近な庁舎で対応できるので負担は感じない。しかし、自治会役員の仕事の関係で、内容に応じて各庁舎を回らなければならず負担を感じている。

* 全国的にも人口が増える見込みがない中、自治体のさらなる広域化の可能性があると思う。米原市の将来の動向を見据えて庁舎の在り方を検討する必要があるのではないか。

* 高齢化が進展する中、交通手段をもたない市民への配慮も必要ではないか。

* 情報インフラが発達している時代なので、在宅でも受けられる市民サービスを充実させることも有効ではないか。

* 各庁舎の維持費や効率性の課題など、現状の分庁舎方式に関するデータを明らかにしてほしい。

* ほとんどの庁舎ではバリアフリー化がされ、車椅子などに対応しているが、庁舎が分散しているため1か所で手続きができるようにしてほしい。

次回の市民委員会のご案内



第2回 8月23日(火)13時30分～ 庁舎・行政サービスセンター視察

第3回 9月13日(火)19時～ 市役所山東庁舎

会議は公開ですので、自由に傍聴できます。また、会議資料や会議録を市の公式ウェブサイトに掲載するほか、市政情報プラザで閲覧することができます。

☎ 政策調整課(米原庁舎)

☎ 52-6626 FAX 52-5195



▲8月2日 第1回委員会の様子(市役所米原庁舎) 初回の会議から、熱心な議論が繰り広げられました。

お問い合わせ
経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)
0581-2230 0581-1630

ビワマスについて

- ◆ 河川でふ化し、ある程度まで成長すると琵琶湖へ下ってさらに成長。(3~5年)
- ◆ 産卵時期になると生まれた河川を遡上して、産卵する。
- ◆ 醒井養鱒場では、養殖品種の開発が進んでいるほか、商工会では調理方法のコンテスト「ビワマスグランプリ」を10月に開催予定。



あなたの「ビワマスの思い出」を募集!

「昔はビワマスが〇〇まで遡上していた」など、みなさんのビワマスの思い出をお寄せください。電話やファックスなどで左記まで。

協同組合連合会などにご協力をいただいています。

今後この会議で、遡上状況の調査や、河川状況に応じた魚道等の検討を行い、次世代の子ども達に天野川を悠然と泳ぐビワマスの姿を見せることができるよう、プロジェクトを進めていきます。